

積雪地域におけるシカ食害対策について  
ー水源林造成事業地における忌避剤効果の検証ー

(国研) 森林研究・整備機構 森林整備センター  
神戸水源林整備事務所 施業計画係長 ○今村 悠  
早坂 峻

1 背景

兵庫県内の水源林造成事業地におけるシカ食害対策は、鹿防護柵を中心に実施しています。しかし、積雪のある県北部地域では、積雪により鹿防護柵が破損し、雪解け直後から防護柵修理のために入山できるまでの間にシカの侵入が認められ植栽木に被害が発生している現状にあります。

そこで、積雪地域での融雪期の防護柵の防除機能の一時的な低下をカバーするために忌避剤散布により補完的防除ができないかについて検証を行うこととしました。

2 検証方法

忌避剤効果の検証に当たっては、試験地を兵庫県中部地域に位置する養父市の水源林造成事業地に設定し、環境に配慮した原料でかつ処理が簡単な獣害対策として新たに販売されたスプレー缶式の忌避剤（以下、「忌避剤 A」）及び林業用に従来から使用されている水和性の忌避剤（以下、「忌避剤 B」）の散布と忌避剤無処理の3パターンを比較とし、各々50本の植栽木に対し効果確認を行いました。

3 検証結果

平成27年12月に植栽を行ったヒノキに対し上記の処理を行い、雪解け後の平成28年4月に食害調査確認を行ったところ、忌避剤無処理木はほぼ全木において食害が確認されたのに対し、忌避剤処理した植栽木については、忌避剤 A、忌避剤 B とともに一定の防除効果が認められ、忌避剤間の比較では忌避剤 A の被害率が低く防除効果が高い結果となりました。

また、前回の検証結果を踏まえ、新たに試験地を設定し、比較的防除効果が高いと思われる忌避剤 A について、平成28年12月に植栽を行ったヒノキに対し、春と初夏にかけて2度の忌避剤の追加処理を行い、防除効果を検証した結果、新芽が上長生長した未散布部分の食害は防ぐことは難しいことが確認されました。

4 考察

上記、検証の結果、忌避剤の効果持続期間の4ヶ月程度の防除効果は認められるものの、春から秋にかけて植栽木が上長生長した忌避剤の未散布部分の食害を防除することは困難であると思われます。

しかし、融雪後の鹿防護柵の早期修理が困難となる積雪地域では、植栽木の上長生長が収まった晩秋に忌避剤を散布しておくことにより、融雪直後の食害の防除を補完でき、より効果的な食害防除効果を期待できると考えています。